

第4期中期目標・中期計画の進捗状況に関する自己点検・評価について

令和6年7月23日
国立大学法人室蘭工業大学
評価分析室
法人評価・自己点検評価部門

令和5年度における中期目標・中期計画の進捗状況を自己点検し、以下の4段階により評価した。

IV	中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある
III	中期目標の達成に向けて順調に進んでいる
II	中期目標の達成に向けておおむね順調に進んでいる
I	中期目標の達成のためには遅れている

<次頁以降の見方>

1. 令和〇年度実績・進捗状況欄について

当該年度に第4期中期目標・中期計画の達成に向けて取り組んだ実績や進捗状況について、(ア)から始まる五十音記号を用いて個別に記載している。

2. 評価指標欄について

当年度欄について網掛けにした上で、以下により記載している。

定量的な評価指標：目標値を記載し、経年の実績値を記載している。

定性的な評価指標：目標値を斜線とし、当年度欄に上記1により記載した実績や進捗状況のうち該当するものの記号を記載している。

3. 自己評価欄について

上記1の実績・進捗状況を踏まえ、中期目標・中期計画の進捗状況を4段階により自己評価した結果を記載している。

中期目標

【1】人材養成機能や研究成果を活用して、地域の産業（農林水産業、製造業、サービス産業等）の生産性向上や雇用の創出、文化の発展を牽引し、地域の課題解決のために、地方自治体や地域の産業界をリードする。①

中期計画

【1-1】本学が第3期中期目標期間において策定した「北海道 MONO づくりビジョン 2060」を基礎とし、地域創生への貢献、イノベーションの創出、エコシステムを利用した教育の実現のために、本学が中核となる大学・地方自治体・企業からなる地域創生総合化エコシステムを構築・活用し、社会からの投資を呼び込む。

令和5年度実績・進捗状況							自己評価
(ア) 令和5年4月に社会連携統括本部を再編した「MONOづくりみらい共創機構」を設置し、エコシステムを構築・活用する体制を整備した。 (イ) 内閣府事業「戦略的イノベーション創造プログラム (SIP)」に、本学が代表研究機関として株式会社浅井農園、北海道伊達市、愛媛大学と共同で応募した研究課題「ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築」が令和5年9月に採択された。							IV
評価指標【1-1-①】 連携対象企業・自治体からの投資実績（共同研究、受託研究、学術指導）を第3期中期目標期間終了時比10%増加させる (単位：千円)							
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値	
222,047	193,586					135,061	

中期計画

【1-2】地域の課題解決のために、データサイエンス等の情報技術やものづくり技術を基盤として、魅力的な地域企業の増加に向けた地方自治体・産業界との連携を通して、地域の産業振興に寄与できる人材を輩出する取組を実施する。

令和5年度実績・進捗状況							自己評価
(ア) 令和5年4月から、数理DS・AI教育プログラム（応用基礎レベル ^{※1} ）に対応したカリキュラムを実施した。 (イ) 理工学部の授業「北海道産業論」において道内の4企業が課題（テーマ）を提案し、学生によるグループワークにより課題を解決するアイデアの立案と具体策を検討し発表した。 (ウ) 令和5年10月に本学学生等を対象としたスタートアップ人材育成に関するセミナー「次世代リーダー育成塾 in 室蘭工業大学 2023」を開催し、講師としてエレベート株式会社代表取締役を迎え、コーディネーターとしてパナソニック ITS 株式会社代表取締役らを招いた。							III
評価指標【1-2-①】 数理・データサイエンスプログラム関連科目を整備し、応用基礎レベル ^{※1} 相当まで充実させる							
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値	
	(ア)						
評価指標【1-2-②】 地域志向人材育成プログラム修了者数を第3期中期目標期間終了時比1.5倍に増加させる (単位：人)							
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値	
475	505					153	

※1 「応用基礎レベル」：文部科学省による「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」

における応用基礎レベル（数理・データサイエンス・AI の知識を、様々な専門分野へ応用・活用することができる能力）を指している。	
---	--

中期目標
【2】学生の能力が社会でどのように評価されているのか、調査、分析、検証をした上で、教育課程、入学者選抜の改善に繋げる。特に入学者選抜に関しては、学生に求める意欲・能力を明確にした上で、高等学校等で育成した能力を多面的・総合的に評価する。⑤

中期計画																																											
【2-1】学士課程における学修成果評価方針（アセスメントポリシー）を点検・見直すとともに、そのアセスメントポリシーに基づき、学士課程における学修成果を社会からの評価結果も含め多面的に評価し、評価結果が学生および社会から見えるように可視化する。また、学士課程教育の改善のため、得られた評価結果を大学のファカルティ・ディベロップメント（FD）活動へ反映させる。																																											
令和5年度実績・進捗状況	自己評価																																										
<p>(ア) 新入生アンケートや卒業予定者アンケートを実施した。特に卒業予定者アンケートでは、理工学部共通科目、学科共通科目及びコース専門科目の理解度がいずれも約80%の肯定的な結果を得られた。</p> <p>(イ) カリキュラムポリシー及びディプロマポリシーのアセスメントプラン案を企画戦略業務室教育チームで作成後、大学教育推進特別委員会で審議し、令和6年度から同プランに基づき評価を行うこととした。</p> <p>(ウ) 学士課程の自己点検・評価を行い、法定会議における審議を経て令和6年5月に結果を公表することとした。</p> <p>評価指標【2-1-①】 学内及び社会への各種アンケート結果において社会からの肯定的な結果が得られていること</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> <th>令和7年度</th> <th>令和8年度</th> <th>令和9年度</th> <th>目標値</th> </tr> <tr> <td></td> <td>(ア)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">/</td> </tr> </table> <p>評価指標【2-1-②】 カリキュラムポリシーとディプロマポリシーに対するアセスメントポリシーの整備及び継続的な検証</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> <th>令和7年度</th> <th>令和8年度</th> <th>令和9年度</th> <th>目標値</th> </tr> <tr> <td></td> <td>(イ)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">/</td> </tr> </table> <p>評価指標【2-1-③】 学修成果評価結果の可視化及びそのFD活動への継続的な反映</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> <th>令和7年度</th> <th>令和8年度</th> <th>令和9年度</th> <th>目標値</th> </tr> <tr> <td></td> <td>(ウ)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">/</td> </tr> </table>	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値		(ア)					/	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値		(イ)					/	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値		(ウ)					/	III
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値																																					
	(ア)					/																																					
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値																																					
	(イ)					/																																					
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値																																					
	(ウ)					/																																					

中期計画															
【2-2】継続的にアドミッションポリシー（AP）を検証し、必要に応じて見直す。特に、総合型選抜を中心に選抜方法を分析し、その結果を、選抜方法の改善に反映させる。															
令和5年度実績・進捗状況	自己評価														
<p>(ア) アドミッションポリシーに関するアセスメントポリシーについて、アドミッションオフィス入学者選抜方法検討部門において原案を作成し、令和6年3月開催の入学試験委員会で決定した。</p> <p>(イ) 令和7年度総合型選抜から新たに女子枠を設置することを決定した。</p> <p>評価指標【2-2-①】 アセスメントポリシーに基づいたAPの整備及びその継続的な検証</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> <th>令和7年度</th> <th>令和8年度</th> <th>令和9年度</th> <th>目標値</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">/</td> </tr> </table>	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値							/	III
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値									
						/									

	(ア)																				
<p>評価指標【2-2-②】 総合型選抜の継続的な分析及び分析に基づく選抜・評価方法の改善</p> <table border="1"> <tr> <td>令和4年度</td> <td>令和5年度</td> <td>令和6年度</td> <td>令和7年度</td> <td>令和8年度</td> <td>令和9年度</td> <td>目標値</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(イ)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>								令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値		(イ)					
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値															
	(イ)																				

中期目標
【3】特定の専攻分野を通じて課題を設定して探究するという基本的な思考の枠組みを身に付けさせるとともに、視野を広げるために他分野の知見にも触れることで、幅広い教養も身に付けた人材を養成する。(学士課程)⑥

中期計画																																											
【3-1】多様な選抜方法で入学してきた学生に対して、学修の範囲を自身の専攻分野だけではなく関連の深い隣接領域へ広げる際に重要となる低学年次の理数基礎科目について、学生の能力に応じて、その理解を補うカスタムメイド型学力向上支援システムを導入・運用する。																																											
令和5年度実績・進捗状況	自己評価																																										
<p>(ア) 物理のリメディアル教育として、Moodle上に物理スタディサポートコースを開設した他、毎週、本学シニアプロフェッサーが担当する「物理スタディサポート室」を開設した。また、数学のリメディアル教育について、令和6年度から実施することとした。</p> <p>評価指標【3-1-①】 理数基礎科目の理解を補う教育を行うための制度としてのカスタムメイド型学力向上支援システムの導入</p> <table border="1"> <tr> <td>令和4年度</td> <td>令和5年度</td> <td>令和6年度</td> <td>令和7年度</td> <td>令和8年度</td> <td>令和9年度</td> <td>目標値</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(ア)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>評価指標【3-1-②】 システム利用学生の理数基礎科目の単位取得率を、第3期中期目標期間終了時と比べ増加傾向にする (単位：%)</p> <table border="1"> <tr> <td>令和4年度</td> <td>令和5年度</td> <td>令和6年度</td> <td>令和7年度</td> <td>令和8年度</td> <td>令和9年度</td> <td>目標値</td> </tr> <tr> <td></td> <td>87</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>79以上</td> </tr> </table> <p>評価指標【3-1-③】 システム利用学生の学習時間を第3期中期目標期間終了時比10%増加させる (単位：時間/週)</p> <table border="1"> <tr> <td>令和4年度</td> <td>令和5年度</td> <td>令和6年度</td> <td>令和7年度</td> <td>令和8年度</td> <td>令和9年度</td> <td>目標値</td> </tr> <tr> <td></td> <td>17.9</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>17.4</td> </tr> </table>	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値		(ア)						令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値		87					79以上	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値		17.9					17.4	III
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値																																					
	(ア)																																										
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値																																					
	87					79以上																																					
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値																																					
	17.9					17.4																																					

中期計画	
【3-2】教養教育を含む理工学部共通教育、基礎的、実践的な情報教育、視野を広げるための幅広い学科共通教育、課題探求能力を身につけるためのコース専門教育それぞれにおける科目群について教育の状況を調査分析し、教育効果を検証するために自己評価を行うとともに外部評価を受ける。	
令和5年度実績・進捗状況	自己評価
<p>(ア) 学士課程の自己点検・評価を行い、法定会議における審議を経て令和6年5月に結果を公表することとした。当該自己点検の過程で各種アンケート結果の分析を行っており、学部卒業予定者アンケートでは、理工学部共通科目、学科共通科目及びコース専門科目の理解度がいずれも約80%の肯定的な傾向を得ることができている。</p> <p>(イ) 物理物質システムコースのJABEE中間審査に係る自己評価を行った。</p>	III

<p>評価指標【3-2-①】 各種アンケートを活用し、総合的な評価結果が肯定的な傾向であること</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> <th>令和7年度</th> <th>令和8年度</th> <th>令和9年度</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>(ア)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値		(ア)						
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値															
	(ア)																				
<p>評価指標【3-2-②】自己評価・外部評価の計画的な実施</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> <th>令和7年度</th> <th>令和8年度</th> <th>令和9年度</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>(ア) (イ)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値		(ア) (イ)						
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値															
	(ア) (イ)																				

中期計画		自己評価														
<p>【3-3】学部の早期から特定の研究分野に興味を持たせ、研究活動に着手できる「学士修士一貫教育プログラム」の取組を基盤とし、大学院進学希望学生に対して、大学院でスムーズに研究活動ができるように、学部の早期から研究マインドを育成する取組を実施する。</p>		III														
<p>令和5年度実績・進捗状況</p> <p>(ア) 学部学生と学士修士一貫教育プログラム学生の交流会を開催し28名が参加した。 (イ) 大学院進学を勧める説明会について、令和5年5月に主に推薦入試に向けた学部4年生を対象とした第1弾、6月に学部3年生及び一般入試に向けた学部4年生を対象とした第2弾、10月に学部1～3年生を対象とした第3弾、令和6年2月に学部1～2年生を対象とした第4弾をオンラインで実施し、延べ336名が参加した。</p>																
<p>評価指標【3-3-①】 学部の早期から研究マインドが育成される取組の実施と継続的な検証</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> <th>令和7年度</th> <th>令和8年度</th> <th>令和9年度</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>(ア) (イ)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値		(ア) (イ)					
令和4年度	令和5年度		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値									
	(ア) (イ)															
<p>評価指標【3-3-②】 大学院博士前期課程進学者を第3期中期目標期間終了時までと比べて増加させる (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> <th>令和7年度</th> <th>令和8年度</th> <th>令和9年度</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>264</td> <td>255</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>222</td> </tr> </tbody> </table>		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値	264	255					222	
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値										
264	255					222										
<p>※各年度の実績値は、選抜年度ではなく入学年度の実績である。</p>																

中期目標
<p>【4】研究者養成の第一段階として必要な研究能力を備えた人材を養成する。高度の専門的な職業を担う人材を育成する課程においては、産業界等の社会で必要とされる実践的な能力を備えた人材を養成する。(修士課程) ⑦</p>

中期計画	自己評価
<p>【4-1】理工学部改組との連続性を明確にし、大学院博士前期課程各専攻のコースを再編する。その際、大学院博士前期課程の教育課程を、研究能力の根拠を支える系統的なコースワーク科目と具体的なテーマを設定した演習系科目で構成する。また、研究能力が、大学院博士前期課程の学生個人にどれだけ備わったかを可視化するために、新たに研究能力ポートフォリオ(仮称)を整備し、運用する。</p>	III
<p>令和5年度実績・進捗状況</p> <p>(ア) 令和5年4月に大学院博士前期課程各専攻のコースを再編した。 (イ) MCのカリキュラムマップについては、令和7年度の大学院履修要項に学部科目とMC科目の分野対応表として記載することとし、各コースへの確認作業を進めることとした。</p>	

(ウ) 研究能力ポートフォリオへの学生の入力率向上のため、研究計画調書提出時及び修士論文提出時に研究活動状況を提出させることとし、令和5年度入学者から実施することとした。

評価指標【4-1-①】

令和5年度までに大学院博士前期課程のコースを再編し、その教育課程表、コース専門科目の系統図及び科目ナンバリング表を作成・公開する

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値
	(ア) (イ)					

評価指標【4-1-②】

令和6年度までに大学院博士前期課程学生の研究能力ポートフォリオ（仮称）を整備する

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値
	(ウ)					

評価指標【4-1-③】

研究能力ポートフォリオ（仮称）への研究活動登録率を上昇させる

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値
	-					

中期目標

【5】深い専門性の涵養や、異なる分野の研究者との協働等を通じて、研究者としての幅広い素養を身に付けさせるとともに、独立した研究者として自らの意思で研究を遂行できる能力を育成することで、アカデミアのみならず産業界等、社会の多様な方面で求められ、活躍できる人材を養成する。（博士課程）⑧

中期計画

【5-1】「イノベーション博士人材」育成のために、大学院博士後期課程の学生が在学中から産業界を意識しながら研究活動を実施することができるように、大学院博士後期課程カリキュラムの実施方法を改善する。

令和5年度実績・進捗状況

(ア) 大学院博士後期課程における「次世代イノベーションを駆動する異分野融合博士人材育成支援プロジェクト（JST 次世代研究者挑戦的研究プログラム）」に選抜された学生の「ドクコン（博士後期課程の学生と産業界の交流の場）」への参加を必須とした。
(イ) 参加企業による学生プレゼンテーションに対する評価は、発表学生6名の平均が7.7点（満点10点）であり、アンケートでは参加企業6社全てがドクコンへの参加が有益であるとの回答を得ている。

評価指標【5-1-①】

国内企業、国立研究開発法人、海外研究機関等における長期インターンシップや産業界との交流事業を実施し、その事後アンケート等において、対象の大学院博士後期課程学生に対する産業界等からの肯定的な評価結果が得られること

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値
	(ア) (イ)					

III

中期計画

【5-2】新たに令和5年度までに、世界トップレベルの教育実践を目的としたコンピュータ科学人材育成センター（仮称）を設立し、コンピュータ科学分野で高い研究開発能力を有し、産業界とアカデミアの双方で活躍できる能力を培うための取組を推進する。

令和5年度実績・進捗状況							自己評価																				
<p>(ア) 令和5年4月にコンピュータ科学センターを設置し、同年8月に創立記念シンポジウムを開催した。当該シンポジウムにおいて、東京医科歯科大学、早稲田大学、慶應義塾大学及び大阪大学から研究者を招へいし、パネルディスカッションや基調講演を行った。</p> <p>(イ) 令和6年1月に天津大学、上海交通大学、香港理工大学、中国地質大学、中山大学及び会津大学から研究者を招へいし、国際ワークショップを開催した。</p>							III																				
<p>評価指標【5-2-①】 令和5年度までのコンピュータ科学人材育成センター（仮称）設立</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> <th>令和7年度</th> <th>令和8年度</th> <th>令和9年度</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>(ア)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>								令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値		(ア)											
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値																					
	(ア)																										
<p>評価指標【5-2-②】 海外や産業界等からの研究者招聘や国際ワークショップの開催を継続的に実施する</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> <th>令和7年度</th> <th>令和8年度</th> <th>令和9年度</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>(ア)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>(イ)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>								令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値		(ア)							(イ)				
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値																					
	(ア)																										
	(イ)																										
<p>評価指標【5-2-③】 センター所属教員の指導学生一人当たりの質の高い発表論文※2数を第3期中期目標期間終了時比10%増加させるとともに、センター所属教員のTOP10%論文率が10%以上であること (単位：報/人（上段）、%（下段）)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> <th>令和7年度</th> <th>令和8年度</th> <th>令和9年度</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>2.00</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.82</td> </tr> <tr> <td></td> <td>66.7</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table>							令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値		2.00					1.82		66.7					10
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値																					
	2.00					1.82																					
	66.7					10																					
<p>※2 「質の高い発表論文」：Elsevier社が提供する文献データベース Scopus における Q1、Q2 レベルの論文を指している。</p>																											

中期目標
【6】学生の海外派遣の拡大や、優秀な留学生の獲得と卒業・修了後のネットワーク化、海外の大学と連携した国際的な教育プログラムの提供等により、異なる価値観に触れ、国際感覚を持った人材を養成する。⑫

中期計画																
【6-1】異なる価値観に触れ、国際感覚を持った人材を養成するために、海外協定校等と協働した教育プログラムの展開など学生の海外派遣を充実させる。優秀な留学生の獲得と卒業・修了後のネットワーク化のために、海外在住OBを活用した海外同窓会体制を新たに整備する。																
令和5年度実績・進捗状況	自己評価															
<p>(ア) 海外派遣制度を利用した学生と学士修士一貫教育プログラム学生等との交流会を令和5年12月開催し、28名が参加した。</p> <p>(イ) 海外派遣を充実させる取り組みとして IAESTE による研修プログラムを活用し、本学キャリア・サポート・センターが主催し、当該プログラムに関する説明会を開催した。なお、令和4年度に当該プログラム派遣候補生となった学生3名が令和5年度にドイツやチェコにおいて研修に参加した。</p> <p>(ウ) マレーシアに在住する本学同窓生と連携し、マレーシアに同窓生同士の情報交換の場を構築した。</p>	III															
<p>評価指標【6-1-①】 日本人学生派遣数を第3期中期目標期間終了時比1.2倍とする (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> <th>令和7年度</th> <th>令和8年度</th> <th>令和9年度</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値								
令和4年度		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値									

16	57					61														
<p>評価指標【6-1-②】 海外同窓会体制として2拠点を整備する</p> <table border="1"> <tr> <td>令和4年度</td> <td>令和5年度</td> <td>令和6年度</td> <td>令和7年度</td> <td>令和8年度</td> <td>令和9年度</td> <td>目標値</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2</td> </tr> </table>							令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値	0	1					2
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値														
0	1					2														

<p>中期目標</p> <p>【7】様々なバックグラウンドを有する人材との交流により学生の視野や思考を広げるため、性別や国籍、年齢や障害の有無等の観点から学生の多様性を高めるとともに、学生が安心して学べる環境を提供する。⑬</p>
--

<p>中期計画</p> <p>【7-1】多様な学生を受け入れて学生に自身の視野や思考を広げる教育環境を提供するため、女子学生や社会人学生、留学生、障害者を受け入れる環境および交流させる環境を整備する。</p>																													
<p style="text-align: center;">令和5年度実績・進捗状況</p> <p>(ア) 学生からの修学支援要望に基づいた支援を行う体制を整備しており、当該体制に基づき学生に対して支援を行った。 (イ) 学生向けのキャリア形成のためのランチタイムセミナーを令和5年11月及び令和6年1月に実施した。また、教職員のためのダイバーシティセミナー2023を令和5年11月に実施した。 (ウ) 令和4年度に新設した「社会人研修プログラム」により「自由研削用といしの取替え等の業務特別教育」「低圧電気取扱業務特別教育」「次世代リーダー育成塾 in 室蘭工業大学2023」を実施した。</p> <p>評価指標【7-1-①】 学生意向の把握と学生意向を踏まえた計画的な環境の整備</p> <table border="1"> <tr> <td>令和4年度</td> <td>令和5年度</td> <td>令和6年度</td> <td>令和7年度</td> <td>令和8年度</td> <td>令和9年度</td> <td>目標値</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(ア)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>評価指標【7-1-②】 様々なバックグラウンドを有する人材との交流を促す講演会等を1回/年以上開催する (単位：回)</p> <table border="1"> <tr> <td>令和4年度</td> <td>令和5年度</td> <td>令和6年度</td> <td>令和7年度</td> <td>令和8年度</td> <td>令和9年度</td> <td>目標値</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>年1以上</td> </tr> </table>	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値		(ア)						令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値	3	2					年1以上	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p style="text-align: center;">III</p>
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値																							
	(ア)																												
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値																							
3	2					年1以上																							

<p>中期計画</p> <p>【7-2】性別や国籍、年齢、障害の有無等が異なる多様な学生を含め、全ての学生が勉学に専念できる環境を整えるために、大学生生活支援、学習支援、就職活動支援等をWebの活用により可視化(学生支援Webマップ)し、様々な支援の利便性を向上させる。</p>															
<p style="text-align: center;">令和5年度実績・進捗状況</p> <p>(ア) 学生支援WebマップをHTML形式により試作し、学生サポート委員会で議論した後、正式にWeb公開した。</p> <p>評価指標【7-2-①】 大学生生活支援、学習支援、就職活動支援等のWebマップを令和6年度までに実装する</p> <table border="1"> <tr> <td>令和4年度</td> <td>令和5年度</td> <td>令和6年度</td> <td>令和7年度</td> <td>令和8年度</td> <td>令和9年度</td> <td>目標値</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(ア)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>評価指標【7-2-②】</p>	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値		(ア)						<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p style="text-align: center;">III</p>
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値									
	(ア)														

Web マップに関する各種アンケートの実施及びアンケート結果に基づく Web マップの継続的な改善						
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値
	-					

中期目標
【8】真理の探究、基本原理の解明や新たな発見を目指した基礎研究と個々の研究者の内在的動機に基づいて行われる学術研究の卓越性と多様性を強化する。併せて、時代の変化に依らず、継承・発展すべき学問分野に対して必要な資源を確保する。⑭

中期計画															
【8-1】従来型の学問分野を基礎とする教員研究組織ユニットについて、研究計画と構成員の研究業績の評価によって各ユニットの業績等を明らかにし、その評価結果を次年度に配分する研究費に反映させ、各ユニットの基盤研究を充実させる。															
令和5年度実績・進捗状況	自己評価														
(ア) 研究ユニット評価を5月から6月にかけて実施し、7月に46,580千円を予算配分した。 (イ) 「未来創造推進経費（第4期中期計画加速化経費）」に関するヒアリングを5月～6月に実施し、令和4年度継続課題として、9件に合計17,982千円、令和5年度新規課題として、4件に合計14,793千円予算配分した。	III														
評価指標【8-1-①】 教員研究組織の評価と評価結果に基づく研究費の配分を継続的に実施する															
<table border="1"> <tr> <td>令和4年度</td> <td>令和5年度</td> <td>令和6年度</td> <td>令和7年度</td> <td>令和8年度</td> <td>令和9年度</td> <td>目標値</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(ア) (イ)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値		(ア) (イ)					
令和4年度		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値								
	(ア) (イ)														
評価指標【8-1-②】 教員一人当たり査読付き論文数の増加傾向 (単位：報/人)															
<table border="1"> <tr> <td>令和4年度</td> <td>令和5年度</td> <td>令和6年度</td> <td>令和7年度</td> <td>令和8年度</td> <td>令和9年度</td> <td>目標値</td> </tr> <tr> <td>2.00</td> <td>2.13</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.84</td> </tr> </table>	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値	2.00	2.13					1.84	
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値									
2.00	2.13					1.84									

中期計画															
【8-2】基礎研究と個々の研究者の内在的動機に基づいて行われる学術研究の卓越性と多様性を強化するために、教員の国際的な活動を支援する制度を充実させるなどして、国際共同研究を強化する。															
令和5年度実績・進捗状況	自己評価														
(ア) 研究推進室において国際共同研究プロジェクトの申請や国際共同研究立ち上げのためのサポート制度の導入について検討した。 (イ) コロナ禍により採択されたものの派遣を一時停止していた若手研究者海外派遣について、既採択者の渡航支援を行った。	III														
評価指標【8-2-①】 国際共著論文数の増加傾向 (単位：報/人)															
<table border="1"> <tr> <td>令和4年度</td> <td>令和5年度</td> <td>令和6年度</td> <td>令和7年度</td> <td>令和8年度</td> <td>令和9年度</td> <td>目標値</td> </tr> <tr> <td>0.57</td> <td>0.68</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.51</td> </tr> </table>		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値	0.57	0.68					0.51
令和4年度		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値								
0.57	0.68					0.51									
評価指標【8-2-②】															

国際共著論文のFWCI(Field Weighted Citation Impact)値1.0以上を維持する						
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値
1.98	1.52					1.0以上

中期目標
【9】地域から地球規模に至る社会課題を解決し、より良い社会の実現に寄与するため、研究により得られた科学的理論や基礎的知見の現実社会での実践に向けた研究開発を進め、社会変革につながるイノベーションの創出を目指す。⑮

中期計画
【9-1】「北海道 MONO づくりビジョン2060」で掲げた①「産業」の価値、②「地域」・「生活」の価値等を向上させる持続可能で豊かな社会を実現するための科学技術開発を推進するクリエイティブコラボレーションセンターを充実させる。

令和5年度実績・進捗状況	自己評価														
<p>(ア) 令和6年3月に対面及びオンラインによるハイブリット形式でクリエイティブコラボレーションセンターのワークショップを開催した。COI-NEXTのワークショップとの共催による講演会やパネルディスカッションには、学内外から約110名参加者があった。その後、センター外のメンバーも含む21件のポスター発表を実施し、ポスター発表中に分野を超えた新たなコラボレーションのアイデアを提案した5つのグループにクリエイティブコラボレーション賞を授与した。</p> <p>(イ) 「構造減災リサーチラボ」と「災害廃棄物リサーチラボ」を閉鎖し「自然災害・防災技術リサーチラボ」に統合した。「先端リモートセンシングラボ」及び「ライフサイエンスラボ」を新設した。</p>	III														
<p>評価指標【9-1-①】 クリエイティブコラボレーションセンターの教員一人あたりの査読付き論文数と外部資金獲得額に基づく総合指標値*3（本学提案）の増加傾向</p> <table border="1"> <tr> <td>令和4年度</td> <td>令和5年度</td> <td>令和6年度</td> <td>令和7年度</td> <td>令和8年度</td> <td>令和9年度</td> <td>目標値</td> </tr> <tr> <td>25.5</td> <td>27.7</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>21.7超</td> </tr> </table>		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値	25.5	27.7					21.7超
令和4年度		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値								
25.5	27.7					21.7超									
<p>*3 「総合指標値」：本学のイノベーションステージを技術成熟度レベル2「Research to Prove Feasibility」からレベル4「Technology Development」と想定し、その達成度は総合的な研究活動（査読付き論文数、外部資金獲得額（受託・共同研究費等）を対象として評価することとした。総合指標は、本学の定量的総合評価による教員評価システムの実績を活かし、前述の研究活動毎に重み係数を定めている。</p>															

中期目標
【10】国内外の大学や研究所、産業界等との組織的な連携や個々の大学の枠を越えた共同利用・共同研究、教育関係共同利用等を推進することにより、自らが有する教育研究インフラの高度化や、単独の大学では有し得ない人的・物的資源の共有・融合による機能の強化・拡張を図る。⑯

中期計画
【10-1】日本の宇宙・航空機の学術研究コミュニティの中核として機能し、高度な宇宙・航空機人材の育成を推進することにより、基盤技術の研究開発（超音速有翼機研究）の継続に加え、日本の大学で本学のみが有する白老実験施設（Linear Hyper-G環境実験施設、航空宇宙機エンジン実験施設、飛行試験設備）を共同利用した日本国内大学や産業界との受託・共同研究を推進する。

令和5年度実績・進捗状況	自己評価
(ア) 名古屋大学、東京大学、静岡大学、埼玉大学との共同研究を実施した。また、ISAS/JAXA及び東京大学と共同し100m軌道を用いた滑走試験も実施したほか、サブスケール超音速有翼実験機に関する飛行試験を複数回実施し、基盤技術実証を進めた。	IV

(イ) 本学大学院授業「飛行力学特論」「航空宇宙材料工学特論」について、本学大学院生に加え北海道大学大学院生が受講した。このほかBoeing externship Summer seminarや三菱重工民間機開発体験型教育プログラムに本学学生が参加した。

評価指標【10-1-①】
航空宇宙機システム研究センターの日本国内大学、企業との受託・共同研究数を年間 1.75 件/人以上とする

(単位：件/人)

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値
11.00	10.83					1.75

中期計画							自己評価
【10-2】第3期中期目標期間において、国際拠点化を推進した希土類材料研究センターの実績を地域への貢献に活かすために、世界的な希土類の共同研究体制を強化する。							
令和5年度実績・進捗状況							III
(ア) 産官と連携し実施している環境省「既存のインフラを活用した水素供給低コスト化に向けたモデル構築・実証事業」について、室蘭市内の食堂施設、宿泊施設および小規模ロードヒーティングに水素ボイラーを、金属加工工場に水素バーナーを設置し、様々な水素利用を検討する施設整備を行った。 (イ) 農工連携共同研究体制の構築と北海道地域に材料拠点を形成するための検討を進め、バイオマス灰添加によるガラス改質に関する基礎研究を株式会社マテックとの共同研究を進めた。 (ウ) 国際ネットワークの拡大を目指し、テネシー大学ノックスビル校との研究交流の可能性について相互にオンラインミーティングを実施した。その結果、令和5年7月に2大学間の共同研究契約 (Collaborative Research Agreement) の締結に至った。							
評価指標【10-2-①】 希土類材料研究センターの国際共著論文比率及び教員一人あたりの論文数を第3期中期目標期間終了時比10%増加させる							
(単位：% (上段)、報/人 (下段))							
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値	
40.9	41.5					38.3	
1.83	1.71					1.66	
評価指標【10-2-②】 学生海外派遣数を第3期中期目標期間終了時比10%増加させる							
(単位：人)							
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値	
0	2					17	

中期目標

【11】 内部統制機能を実質化させるための措置や外部の知見を法人経営に生かすための仕組みの構築、学内外の専門的知見を有する者の法人経営への参画の推進等により、学長のリーダーシップのもとで、強靱なガバナンス体制を構築する。⑳

中期計画

【11-1】 本学のガバナンス体制をさらに強化するために、教職員のコンプライアンスに対する意識を向上させる研修等を継続的に実施する。また、ガバナンスコードへの適合状況等の確認及び監査等を実施し、実施結果等を本学の機能強化に繋げることで、法令等に基づく業務の適正な運営を確保する。

令和5年度実績・進捗状況							自己評価
(ア) 教職員のコンプライアンスに対する意識を向上させるため、令和5年6月に情報セキュリティ定期講習を実施したほか、令和5年11月に個人情報保護研修を実施した。 (イ) ガバナンスコードへの適合状況等を確認し、令和5年7月に経営協議会、令和5年9月に役員会において審議の後、令和5年10月に公表した。							III
評価指標【11-1-①】 ガバナンスコードへの適合状況等の確認、監査結果等の反映、研修等の実施及びこれらの学内外への公表を継続的に行う							
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値	
	(ア) (イ)						

中期計画

【11-2】 大学の経営機能を強化するため、顧問制度等を活用し、学内外の専門的知見を有する者が参画した法人経営体制を整備・運用する。

令和5年度実績・進捗状況							自己評価
(ア) 令和6年度から始まる新経営体制に向けて、現行の企画戦略会議等の運営方法を見直し、学長特命連絡会は廃止し、企画戦略会議において特命事項を含む事項を取り扱うこととし、学長補佐に参画させることとした。							III
評価指標【11-2-①】 顧問制度等を活用した経営改善プランを策定し、当該プランに基づく法人経営を行う							
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値	
	(ア)						

中期目標

【12】 大学の機能を最大限発揮するための基盤となる施設及び設備について、保有資産を最大限活用するとともに、全学的なマネジメントによる戦略的な整備・共用を進め、地域・社会・世界に一層貢献していくための機能強化を図る。㉑

中期計画

【12-1】 施設 IR(Institutional Research)によるエビデンスをベースとした分析に基づき、教育研究に係る施設の有効活用を推進し、共創の拠点を整備する。また、低炭素社会の実現に向けて環境保全対策や省エネルギー対策等を実施する。

令和5年度実績・進捗状況							自己評価
(ア) 本学の職員宿舎において、令和4年度末に実証実験の場として73㎡の整備工事が完了し、令和5年度から産学官共同の実証実験を開始した。 (イ) 既に整備済みの共創拠点の場(アライアンスラボ)254㎡については、大学発ベンチャ							III

一企業1社（北海道地域 ICT 研究開発合同会社）が新たに入居し、合計4社が利用している。

(ウ) キャンパスマスタープラン2023を策定し低炭素社会の実現に向けた省エネルギー対策等を整理した。

(エ) 「北海道環境マネジメントシステム (HES)」ステップ2を維持するため本学が制定した「HES 環境マネジメントマニュアル」に従って環境改善活動を行った。

評価指標【12-1-①】

施設等の利用状況を把握・分析し、共創拠点となる施設・設備の割合を第3期中期目標期間終了時比10%増加させる

(単位：m²)

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値
254	327					280

評価指標【12-1-②】

北海道環境マネジメントシステムスタンダード (HES) ※4 ステップ2を維持する

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値
	(エ)					

※4 「北海道環境マネジメントシステムスタンダード (HES)」：組織の環境マネジメントシステムに関する国際規格である ISO14001 を基本とし、多くの組織が容易に取り組める環境マネジメントシステムとして、北海道商工会議所連合会が中心となり、経済団体、環境関係団体、行政機関（北海道・札幌市）の協力を得て構築した、環境保全活動と経営の安定を支援する環境規格。2段階で構成されており、ステップ1が環境問題に取り組み始めた段階(PDCA を回す最小限の範囲で ISO14001 を基本に要求事項を簡素化したもの)であり、ステップ2は環境問題への高度な取組の段階(要求事項は ISO14001 とほぼ同様)と位置付けられている。

中期計画

【12-2】地域の施設・設備の高度化の好循環を実現するため、地域、自治体、企業等が施設・設備等を有効活用できる体制を整備・運用するとともに、地域・大学の人的・物的資源の共有・融合による共同研究や委託研究等を充実させる。

令和5年度実績・進捗状況

自己評価

(ア) 令和6年3月に COI-NEXT アシルトイタプロジェクトのワークショップや連携機関である国立アイヌ民族博物館などの協力を得たアイヌの食文化体験イベントを実施し、学生や市民などが参加した。イベントの開催を通じ、人材の育成と地域との共創活動への寄与している。

(イ) 内閣府事業「戦略的イノベーション創造プログラム (SIP)」に、本学が代表研究機関として株式会社浅井農園、北海道伊達市、愛媛大学と共同で応募した研究課題「ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築」が令和5年9月に採択された。これに伴い伊達市にオフィスを設置し、人員を配置してプロジェクトの実施体制を整備した。

III

評価指標【12-2-①】

連携対象企業・自治体からの投資実績（共同研究、受託研究、学術指導）を第3期中期目標期間終了時比10%増加させる（1-1-①再掲）

(単位：千円)

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値
222,047	193,586					135,061

中期目標

【13】公的資金のほか、寄附金や産業界からの資金等の受入れを進めるとともに、適切ナリスク管理のもとでの効率的な資産運用や、保有資産の積極的な活用、研究成果の活用促進のための出資等を通じて、財源の多元化を進め、安定的な財務基盤の確立を目指す。併せて、目指す機能強化の方

向性を見据え、その機能を最大限発揮するため、学内の資源配分の最適化を進める。⑳

中期計画

【13-1】ビジョンやIRデータ等と連動した中期財政計画（10年）を新たに策定するとともに、中期財政計画に基づき、財源の多元化及び財務基盤の安定化に資する施策の実施と学長裁量経費などの重点投資を充実させる。

令和5年度実績・進捗状況

自己
評価

- (ア) 中期財政計画について令和6年3月に開催した法定会議における審議を経て策定した。
- (イ) 財源の多元化に向け、寄附金獲得増加に向けた広報誌改革に着手したほか、北洋銀行との遺贈寄附に関する協定を締結した。また、奨学寄付金を含む寄付金募集に関するウェブページをリニューアルし、本学寄付制度の案内を一元化した。
- (ウ) 令和5年度補正予算の学長裁量経費について、期中に当初予算の精査・見直しを行った結果捻出された財源184百万円を「第4期中期目標・中期計画の着実な実行」「教育研究基盤の環境整備」「運営改善及び諸課題への対応」「翌事業年度以降への繰り越し」に係る財源として追加配分を行った。

評価指標【13-1-①】

令和4年度までに新たな中期財政計画（10年）を策定し、財源の多元化及び財務基盤の安定化に資する施策並びに重点投資を特定し、計画的に実行する

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値
	(ア)					/
	(イ)					
	(ウ)					

III

中期目標

【14】外部の意見を取り入れつつ、客観的なデータに基づいて、自己点検・評価の結果を可視化するとともに、それを用いたエビデンスベースの法人経営を実現する。併せて、経営方針や計画、その進捗状況、自己点検・評価の結果等に留まらず、教育研究の成果と社会発展への貢献等を含めて、ステークホルダーに積極的に情報発信を行うとともに、双方向の対話を通じて法人経営に対する理解・支持を獲得する。㉑

中期計画

【14-1】エビデンスベースの法人経営を実現するために、学内情報資産のIT化(デジタル化)を推進し、IRデータの蓄積・分析プラットフォームを構築する。これらのデータと、外部有識者などの専門的知見を活用し、客観性と外部性を確保した自己点検・評価マネジメントを実施する。

令和5年度実績・進捗状況

自己
評価

- (ア) 統合データ基盤（IRデータの蓄積・分析プラットフォーム）に搭載するIRデータカタログを作成し、テスト用に作成した外部資金データや各種アンケート結果等を統合データ基盤に投入し、ダッシュボード案を作成した。
- (イ) 令和5年度の中期計画の進捗状況を評価分析室で点検し、令和5年12月開催の企画戦略会議で報告した。

評価指標【14-1-①】

IRデータの蓄積・分析プラットフォームを構築し、エビデンスに基づく自己点検・評価を継続的に実施する

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値
	(ア)					/
	(イ)					

III

中期計画

【14-2】ステークホルダーの法人経営に対する理解・支持を獲得するために、多様なステークホルダーに対して、多様な広報媒体を活用し、積極的に情報発信を行うとともに、ステークホルダーとの意見交換の機会を設定する。

令和5年度実績・進捗状況						自己評価	
(ア) 新たに TikTok を活用した大学広報を行うことを決定した。 (イ) 令和5年6月及び令和5年12月に記者懇談会を実施し、延べ8社9名が参加した。 (ウ) 本学学生の保護者を対象とした地区別懇談会をオンラインで実施し、意見交換を行った。 (エ) 経営協議会学外委員による大学視察を行った。						III	
評価指標【14-2-①】 多様な広報媒体を活用した積極的な情報発信							
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度		目標値
	(ア)						/
評価指標【14-2-②】 相互理解を目的としたステークホルダーとの定期的な意見交換						III	
相互理解を目的としたステークホルダーとの定期的な意見交換							
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度		目標値
	(イ) (ウ) (エ)						/

中期目標

【15】AI・RPA (Robotic Process Automation) をはじめとしたデジタル技術の活用や、マイナンバーカードの活用等により、業務全般の継続性の確保と併せて、機能を高度化するとともに、事務システムの効率化や情報セキュリティ確保の観点を含め、必要な業務運営体制を整備し、デジタル・キャンパスを推進する。②

中期計画

【15-1】第3期中期目標期間にデジタル技術を活用した業務の効率化として導入したRPAを発展させ、更なる業務の効率化及びデータ分析に基づく業務運営体制の強化を目指した、迅速かつ柔軟性のあるデジタル・キャンパスを推進する。そのために、セキュアな情報基盤を整備し、デジタル・キャンパスを推進する組織を設置・運用する。

令和5年度実績・進捗状況						自己評価	
(ア) デジタル・キャンパス推進スチューデントアンバサダー制度を創設、6名の学生をアンバサダーに認定し、定期的にミーティングを行っている。 (イ) 職員が取り組んだGOOD ACTION (新しい取組み・業務工夫) をシェアするためのイベントを企画し、令和6年3月に実施した。 (ウ) 新グループウェア Garoon 及びクラウド型コンテンツ管理基盤 Box の運用を開始した。 (エ) RPA の普及拡大に向けて、RPA ハンズオンセミナーを企画、実施した。 (オ) Microsoft365 スキルUP ワークショップを企画、実施した。 (カ) セキュアな環境でノートPCの活用を推進するため、業務用ノートPC利用マニュアルを整備し、事務局プライベートネットワーク接続用無線LAN「jimu-local」を導入した。 (キ) 令和6年1月にISMS/BCMS更新審査を受審し、同年2月に認証の更新が承認された。						IV	
評価指標【15-1-①】 チャットボットをはじめとした業務効率化関連事業数を新たに3件以上導入する (単位：件)							
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度		目標値
5	5						3以上
評価指標【15-1-②】						IV	

セキュアな情報基盤を維持する						
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値
	(カ) (キ)					